



## リビア：トリポリのホテル襲撃事件

2015年1月27日、リビアのトリポリ市の「クルンシア」ホテルが襲撃され、外国人を含む複数の死傷者が出た。この事件について、「イスラーム国 トリポリ州」名義の犯行声明がインターネット上で出回った。声明によると、作戦は「アブー・アナス・リービー師のための復讐攻勢」と命名され、戦闘員2名が「イスラーム国」が「十字軍」と称するの治安企業や外交団の巣窟に突入、アメリカ人、フランス人、韓国人、フィリピン人ら計6名を殺害、その後ホテルを包囲した軍の部隊を自動車爆弾で爆破し、兵士7名を殺害した。その上で、トリポリの地における十字軍に対する一層の攻撃を予告した。

### 評価

声明の名義が「イスラーム国」でも、実際の作戦実行者がイラク・シリアで活動する「イスラーム国」と同一の組織であるとは限らない。確かに、リビアで活動するイスラーム主義者の武装勢力の一部が、「イスラーム国」のアブー・バクル・バグダーディーに忠誠を表明し、「州」を設置したと称して「イスラーム国」名義で活動している。



しかし、リビアで活動する「イスラーム国」を称する諸派は、イラク・シリアにおける「イスラーム国」と同一の思想や行動様式を持っているとは限らないようである。例えば、リビアで「イスラーム国」を名乗る武装勢力、或いはその支持者が作成・公開した「リビア

におけるイスラーム国諸州」の地図（上図）をみると、ヨーロッパ諸国による植民地の分割の結果として形成された既存のリビアの国境をそのまま維持し、その領域を3つの州に分けただけの地図であることがわかる。ここから、リビアで「イスラーム国」を名乗る武装勢力は、当面は既存の国家・国境を破壊してイスラーム共同体の統合を図る（かのように装う）イラク・シリアにおける「イスラーム国」とは異なる発想、優先順位の下で活動していると考えることができる。

確かに、リビアはカッザーフィー政権打倒の後、シリア、イラク方面への武器や戦闘員の送り出し元となり、最近ではシリア、イラクから還流した戦闘員の脅威が指摘されている。ただし、アブー・バクル・バグダーディーに忠誠を表明し、「イスラーム国」を名乗るからといって、それによって自動的に現地環境や個別の団体の利害関係を捨象した均質で共通の行動様式を持つ「イスラーム国」が誕生するとは限らないのである。現在のイスラーム過激派諸派の動向は、一見すると「イスラーム国」が世界各地に拡大しているかのように見えるが、実際には各々の活動地の政治・治安情勢と、個々の団体の活動内容により、内情は多様な状況である。

（イスラーム過激派モニター班）

---

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧下さい。URL : <http://www.meij.or.jp/>